

伊香保行

英男高矮

伊香保
湯の町
黄色いタオル
しなればんがさ
湯がけぶる

湯の町伊香保は又夜の町で
伊香保
湯町夜町の
湯町夜町の
火にふける。

漸く疲れを覺れ雨も降り
悉て歸宿したのは十時をすぎた。明日の天氣を察いつゝ
だが明くるは果して満ちる空である。障子を開ければ、ナット
冷氣が流れる。すぐ目を離せばまた山の空に吹ききり山際を浮
く山。それは何かわびしさを想起せた。まだすあかりの山を浮
く山。暮れゆく山を浮く山。それには何の意味があるか。山の
山を眺めて。山は蒼然と暮れいつて。暮れゆく山を浮く山。
間近く眺められた。私はこの冷氣の流れ込むのも忘れて
あるのが見えた。山々が見下せる處で食事をしながらも宿下を通る人々が見
れた。

明け放つお窓からは上越ある
の山々の遠く清く煙をひいてゐるのが見えた。山々が見下せる處で食事をしながらも宿下を通る人々が見
れた。

○おり立ちてすでに久しも山の田に驚はしきりに
あさりあるなり

○音立てゝ降りいたしたる夜の雨をきゝつゝ旅の
床にあるなり

○久々の雨の音なり何がなしなつかしきとも夜更けの床に
○祖母の日を忘れ難なり見るるをとはく離りて
一人住みつゝ
○かけろべる野中のみを走りゆきし兵士の姿は
元へ育つたる

| | | | | |
|----------------------------|--------|----------------|---------------|----------|
| 夜嵐お絹 | 講談 | ワタの日 | 2月 26日 | 2月 25日 |
| 一忍以て百勇を支配す 一静を以て百勇を制すべし | (昭和二二) | 一、八〇二 省官制公布 | 延喜三 文憲法取調會 | 歐洲に赴く(明治 |

(3) 伊藤田
のため
一五) △各
生る
件起る
(明治
二) △各
お話しなすつて妙當分困ら
程のお金を遺つて下さ
まし

「それ、道理だ。宣しく
勘七さん」話をしてお前の
体はわざしが貰ひ受ける事
しやう。無論お金はあげ
ますよ』

「出来ました。小春
こそきななの御ひいきを受
ける事になりました。然
も今まで儲けてるま
う云ふ譯ですかア父さん
にはあなたから番頭さんにしか譲
ではありませ
お話しなすつて妙當分困ら
程の妹をつまらねえ
房にするのは惜しい
れ、十五の秋、挿
したが何時までも懇
て置くと有難い事
幸ひ今度高田屋のれ

老泉
へふへ
動を

昭和十五年五月一日

福島縣立磐城高等女學校長 正木貞一郎
櫻丘會

男の妻がいる、是れは女医の監修を以て行なはる。

外科一般
脳膜外科
性病科
肛門病科

木村外科醫院

電話三〇九話 淳

平市南町十四番地(警銅署通、角)
(舊谷療所 平市六丁目)

今般左記へ新築移轉致候間御通知申上候
昭和十四年四月

| | | |
|-----------------------|-----------------------|---------------------------------|
| 申上候 | 昨年十一月二十六日戰死 | 仲立 土地位借 東北高 賈買貸借 平 平 謂 |
| 相管み可申此段夙知諸彦並櫻丘會員諸姉に御通 | に付二月二十九日午後一時より本校に於し校務 | |
| 頭幸助 | 物のみ | 詐せば |
| の者日 | に渠の | 争に負 |
| 争に負 | ふものさい。少くはれば増して下 | らうと構はす切り出して下 |
| チ | さいとザツクバランに言ひ | ムのものさい。 |
| チ | は江戸ますから | テ |

本校教諭

8

都心に近き保健境

平第三小學校東北方約二萬坪

安全の土地

◎讓 分 地 宅 住 ◎

支那事變前では、投資家の投資物種々難多で、に於て、投資せられたものがありますが、事變の進展に於ける統制の強化は、全く自由に各方面への投資へととなりました。その間に在つて残されたる、而かも至極有利なる投資としては、先づ第一に、やはり土地投資が第一位と云つても過言であります。蓋し經濟界に於ける統制は、物價の抑制を目的とするが、獨り土地の價格には統制がなく、而かも遊資を困つた投資家、期せずして土地に向ひて來るのは、必ず云ふべきであり、更に一面に於いて、事變終結による戦勝インフレの幕が切つて落さるゝことなれば、と共に土地價格の昂騰は期して待つべきものであり、従つて古来土地に投資した者には、殆んど全部が損失はないと思われるのも、この見れ、決して損失はないと云はれてゐるものも、なれるのであります。

安全の土

その向き
は進行と共に
投資が抑制
安全堅實
に土地を舉
イソラント
ではないの
想を致す
招來して
家の放題
當然の歸
數字判別の
宜なる哉

10. *Leucosia* (L.) *leucostoma* (L.) *leucostoma* (L.) *leucostoma* (L.)

中陣を聴く

(711)

承前一全く

中支戰線にて

久しく喰べて

幼い頃はそぞりし。

長する「随つて好きになつた

た様である。家に居た頃は

久し振りの汁粉に

建設の新春を祝ふ

(信)

伊藤弘道君

(通)

市内男女中等學校の入學願

書は今二十四日の大安をト

して多數提出さるるもの

豫想されが總志留者數の

大勢を支配する市内各小學

校では大体二十七日頃差出

す運びとなるらしく、他方

より約十名多く各町村も無

試験に説はれた出願で結果

若干の増加を示すべきは

放送局縣電氣協會共同主催

報の如く既定の事實と觀ら

れてゐる

れどもこの前後して出願の

上愈よ關門突破に關す、難

易、且當がつくものと豫想

されるが第二校は既に前年

ラヂオ初等講習會は二十六

年と前後して出願の

上愈よ關門突破に關す、難

易、且當がつくものと豫想

されるが第二校は既に前年

ラヂオ初等講習會は二十六